# 令和２年度空知農業改良普及センター外部評価報告書

空知農業改良普及センターが取り組んでいる普及指導活動について、効率的、効果的に展開し今後の普及活動に役立てるため、地域で活躍する農業者や関係者、消費者及び有識者の皆様と意見交換を通じて今後の普及活動に活かすことを目的に、普及事業に関する外部評価を実施しましたので報告します。

## Ⅰ　日時・場所

令和３年３月２日（火）に開催を予定していましたが、暴風雪による悪天候のため書面開催としました。

## Ⅱ　懇談会名

令和２年度空知管内地域づくり懇談会

## Ⅲ　参集範囲

地域における安全・安心な農産物生産や農村地域の多面的な機能等の理解とともに、農業改良普及事業に対する理解と協力を得るため、次の各分野から参集する。

（１）先進的な農業者
（２）若手・女性農業者
（３）農業関係団体
（４）消費者
（５）学識経験者
（６）報道機関
（７）民間企業

## Ⅳ　報告内容

１　北海道農業改良普及事業の概要について
２　成果の上がった事例
（１）本所：儲かり続ける「空知型輪作」の実践!!
（２）南東部支所：水稲主体経営における持続可能な地域営農の推進
（３）南西部支所：継続した学習活動で小麦の収量向上を目指す
（４）中空知支所：ＧＡＰによる効率的な農場管理
（５）北空知支所：花きの労働力不足に対応した農福連携

## Ⅴ　ご意見、ご感想等

### １　北海道農業改良普及事業の概要について

〇スマート農業は空知型輪作を進めていく上で重要になると思いますので、より一層、推進してはいかがでしょうか?

〇地域農業の未来を担う人材を育成する農業高校の学級数削減は、今後の農業・農村を支えていく上でも大きな問題です。地域の農業高校の存在価値を高め多くの若者が農業高校を目指したいと思えるような支援事業を考えていただけないでしょうか。

〇経営面積が拡大していますが、経営の近代化・効率化を進めていくため、法人化の支援に力を入れてほしい。

〇思っていたよりも普及センターで多くの活動を行っていることが分かりました。

〇資料全体に言えることですが、農家の声（顔）がもっと見えるようにした方が良いと感じました。

## ２　成果の上がった事例

### （１）本所：儲かり続ける「空知型輪作」の実践!!

〇輪作作物の組み合わせに悩んでいる方々にアドバイスを続けていただけますようお願いします。
〇スマート農業を結びつけた効率的で無駄のないバランスの取れた農業経営を推進していただければ。
〇第４の作物は設備や機械導入等の経費がかかること、また販売先の確保や価格を考えると種類は限られてきますので、地域全体で取り組みを進めていくことが重要になると思います。
〇水稲を含めた４作物の輪作なら連作障害は出にくいし排水対策をしっかり行えば確かに儲かり続けると思います。
〇小麦や大豆価格が低迷する中、儲かり続けるのが興味深く感じました。
〇輪作体系に水稲を組み込んだ空知型輪作は地域の課題を解決し得る一つの方策となることが大きく期待されます。
Ｑ．水稲直播に全面転換した農家戸数は増えていますが、全面転換するまでにこの４戸は部分的に水稲直播をして技術の習得に努めたのでしょうか？
Ａ．長い方では 10 年ほどです。直播は水田の部分的に行うなど技術を高めていました。
Ｑ．直播てんさいが大きく増加した一番の理由は何でしょうか？
Ａ．理由は近隣地域での具体的な栽培事例の情報を得た点です。
収穫機械は１台あたり２～３戸で共同利用が可能であり、ほかにも播種機や防除機などは既存所有の機械で栽培が可能な点です。つまり、追加投資が少ない事です。

### （２）南東部支所：水稲主体経営における持続可能な地域営農の推進

〇省力化技術や直播栽培などにより労働時間の短縮が可能となり、空いた時間を野菜栽培等により所得向上が見込めると思う。
〇どこの地域でも高齢化は課題となっています。担い手の確保は重要で、今後は孫世代や第三者への栽培技術指導も取組の一つとして考えられると思います。
〇若い方はゆとりを大切にされる傾向があるので、「朝早くから夜遅くまで仕事」だけではない農業ができないでしょうか。
〇農業従事者不足の課題解決には農業後継者や新規参入者、複数戸法人の設立など、多様な担い手の育成確保や作業受委託組織などの育成が必要になると思います。
〇水稲産地で花き「ゆり」栽培が行われている仕組みに驚きました。
Ｑ．ゆりほ場のｐＨとＥＣですが、採花後にこんなにＥＣが高くなるのですか？
Ａ．採花後にＥＣが高くなっているのは、着蕾期後に追肥を行っているためです。ゆりでは、施肥窒素は基肥に６割与え、着蕾期後に生育状況を見ながら１～３回の追肥を行うのが標準的な施肥となります。球根にある程度栄養を蓄えているためです。

### （３）南西部支所：継続した学習活動で小麦の収量向上を目指す

〇私の地域の４Ｈクラブでも小麦の生育調査に取り組んでいます。充分なデータが得られ納得できるまで何年でも繰り返し調査を行うことが重要と思います。
〇若い農業者がともに農業技術を学び研鑽されることは大変有意義だと思います。
〇若い人たちが頑張っていることを応援していきたいです。
〇これからも様々なことにチャレンジいただき、情報収集の場としても４Ｈクラブが発展することを望みます。
Ｑ．成果の内容の中で図１と図２の茎数（起生期）に差が出た原因は何でしょうか？
Ａ．茎数が多い原因は、は種時期の違いによるものです。
茎数の多いグループは、９月８日から９月１４日には種されており、前年秋の気象条件が良かったため茎数過多になったと考えられます。
茎数が適正なグループは９月１３日から９月２６日には種が行われているため、茎数が多いグループより葉数も少なく、茎数もほぼ適正になったと思われます。

（４）中空知支所：ＧＡＰによる効率的な農場管理

○「安全・安心」な農産物となるよう、消費者も審査の立会等も行っていくことを考えても良いと思う。
○認証取得だけではなく、継続的な品質保持のための体制と人材づくりに取り組んでいただければ。
○取組を継続するため、活動の支援やＧＡＰ指導員の養成が必要になると思います。
○認証を受けるためには経費がかかりますし、生産物の差別化が受け入れられているとは言えませんので、割高でも消費者の手にとってもらえるようにならないと。
○整理整頓、事故の未然防止など、当たり前のことが取決めとしてなかなかは出来ないのが現状です。
○今後より多くの農家にもＧＡＰの取組が普及していくようご支援・ご協力をお願いします。

Ｑ．ＧＡＰ部会が出来た、作ろうとした大きな原因・要因は？
Ａ．消費者や実需者に選ばれる「信頼ある産地づくり」を目指すためと、生産組合が生産している良食味米ブランドの維持・拡大を図るためです。
Ｑ．認証取得に向けた勉強会の写真がありますが、一番苦労された点は何でしょうか？
Ａ．農場内の整理・整頓が進まない農業者があり、その方の取組を後押しするのに苦労しました。

（５）北空知支所：花きの労働力不足に対応した農福連携

○農福連携を進めていくには障がい者へのサポートが必要で、ＪＡや各経営者が障がい者のことを理解しなければ働くのは難しいと感じました。
○雇用労働力を確保するためには、農福連携など潜在労働力の活用と働きやすい環境づくりが必要だと思いますし、パートなどの短期雇用や適切な外国人の受け入れも必要。
○農業者にとっても作業者にとっても良いところばかりで、この取組が全道に広がっていくことを期待します。
○労働力不足への対応は機械と人手とを組み合わせることで最適化されると考えます。農福連携は地域の労働力資源を掘り起こし、障がいのある方の可能性を広げ社会進出の足がかりとなり得ると考えます。

Ｑ．農福連携の今後の広がりの可能性は（北空知で）
Ａ．今後広がる可能性は高いと思われます。受け入れに意欲的な農業者がおられ、事業所と調整中ですが、事業所の指導員数、農作業の可能な利用者数などには限りがあり、一気に広がることは難しそうです。
Ｑ．指導員にはどのような技術、能力が求められますか？
Ａ．ジョブトレーナーとしては、農作業の経験があり、利用者に作業内容を的確に指導できることが望まれます。
　しかしそのような方は極々少数であり、ジョブトレーナーの研修や場の提供が必要と考えられます。
Ｑ．労働力不足を補うには良いと思いますが、農業者の立場からすると、毎回、同じ方に来ていただけるとありがたいです。送迎がどのようになっているか、交通費は支払っているのか教えてください。
Ａ．今回の事例調査では、事業所側の配慮によりほぼ同じ利用者とのことでした。１シーズン継続して来てもらえる条件として、十分な作業の打合せ、指導員の的確な指導が重要と思われました。
　事業所と農場間の送迎は事業所側が行うものです。このため交通費は発生しません。
Ｑ．障がい者への就労継続支援の最終目標は一般就労をできるだけ広めることにあるので、低額な労働力との認識をしないでいただければ。
Ａ．ご指摘のとおり制度上、Ｂ型事業所ということもあり工賃は最低賃金に比べ低くなっています。
　今回の調査した事例の農場主は地域の福祉委員も務められています。地域の就労継続支援事業所の活動に対して、農業も貢献することを強く意識しておられました。特に、利用者の作業しやすい雰囲気と環境作りに気を使われており、利用者も事業所内での作業ではない、農場での作業を楽しみにしているとのことでした。
　今後も農業が就労の場になることを実証し、地域での理解を広めていくことが重要と考えます。

**３　地域農業の振興と地域活性化のために普及活動に期待することなど、普及センターの活動全般についてご意見・ご感想などがございましたらお願いします。**

〇我々の勉強会に普及センターから協力をいただき助かっています。他の普及センターでも引き続き４Ｈクラブの活動にご理解とご協力をお願いします。

〇地域農業は多くの課題に直面していますし、課題対応に向け、地域に密着した各種の普及活動は重要だと考えます。

〇普及センターの人事異動のサイクルが早いので、農業者側としても慣れるのに時間がかかります。

〇普及センターに関わりある農業者は一握りで、多くの農業者にとって普及センターは敷居が高く入りにくい感じがします。

〇６次産業化の取組を農業者が加工まで全て手がけようとすると費用と時間がかかり途中で挫折してしまいますので、普及センターには加工業者とのマッチング活動を期待します。

〇北海道では普及センター・ＪＡ・行政の連携がまだ残っていますので、弱体化させないようにしてほしいし、そのためにも外への発信をお願いしたい。

〇管内の農業振興に対し普及センターからの多大なるご協力とご支援をいただいていることに対し、改めて感謝申し上げます。